

平成 23 年度 第 2 回

## 枚方市病院事業運営審議委員会 資料

案件 1

市立枚方市民病院の経営状況について（平成 22 年度決算）…資料 1

案件 2

市立枚方市民病院における医師大学院修学資金貸与制度の拡充について…資料 2

案件 3

新病院整備事業の進捗状況等について  
…別紙「新病院の概要」・「新病院における災害時医療対応（感染症対応）」

案件 4

新病院の名称について…資料 3

市立枚方市民病院

## 市立枚方市民病院の経営状況について（平成22年度決算）

### 1 総括

平成22年4月に診療報酬の改定が行われましたが、本院においては、診断群分類別包括支払制度（DPC-PDPS）への移行（平成21年7月）後、2年目を迎え、医業収益の拡大を図るため、医師等の処遇改善に取り組むとともに、新病院に向けて、乳房X線撮影装置など医療機器の先行整備を行いました。また、11月には、北河内夜間救急センターが本院に隣接する市立保健センター内に移設され、本院の小児救急は二次救急医療に専念することとなりました。

新病院整備事業については、平成21年度の基本設計に続き、平成22年度には実施設計及び新病院用地の文化財調査に着手しました。

収支状況については、収益面では診療単価がアップしたことにより入院収益は増加しましたが、小児救急医療体制の見直しに伴い小児時間外外来患者数が減少したことなどにより、外来収益は減少しました。費用面では、看護師増員による給与費の増加や医療機器の減価償却費の増加があったものの、外来患者数の減少や診療材料費の値下げ等による材料費の減少などにより、総額ではほぼ横ばいとなり、収支差引としては、純利益を計上することができました。

### 2 業務量

#### (1) 入院

平成22年度の入院患者数は、延べ70,786人で、1日当たり193.9人となり、21年度に比べて1日当たり1.0人増加しました。また、一般病床利用率も21年度より0.4ポイント増加し、71.6%となりました。入院患者数が増加した主な理由は、入院患者の平均在院日数が、21年度より0.2日増加したことなどが考えられます。さらに、診療単価は46,173円となり、21年度と比べて1,181円増加しています。

#### (2) 外来

平成22年度の外来患者数は、延べ185,499人で、1日当たり763.4人となり、21年度に比べて1日当たり94.8人減少しました。外来患者数が減少した主な理由は、平成22年11月からの小児救急体制の変更に伴い、小児科の時間外受診患者数が11月から3月までの期間で6,638人減少したことや、22年度は新型インフルエンザの大きな流行がなかったことなどが考えられます。また、診療単価は8,515円となり、21年度と比べて353円増加しています。

表 1

項 目		平成21年度		平成22年度	
		決 算	決 算	増 減	増 減 率
入 院	延入院患者数	70,406 人	70,786 人	380 人	0.5 %
	一日平均患者数	192.9 人	193.9 人	1.0 人	0.5 %
	入院診療単価	44,992 円	46,173 円	1,181 円	2.6 %
	一般病床利用率	71.2 %	71.6 %	0.4 %	0.6 %
外 来	延外来患者数	207,684 人	185,499 人	△22,185 人	△10.7 %
	一日平均患者数	858.2 人	763.4 人	△94.8 人	△11.0 %
	外来診療単価	8,162 円	8,515 円	353 円	4.3 %

### 3 経営状況

#### (1) 収 益

平成22年度の病院事業収益は、60億4,926万6千円で、21年度に比べ8,031万6千円増加しました。このうち、医業収益は55億9,321万7千円で、21年度に比べ273万9千円増加しています。これは、平成22年4月に行われた診療報酬の改定の影響などにより、入院収益が1億68万1千円増加する一方で、外来患者数の減少等により外来収益が1億1,563万6千円減少したことや、その他医業収益が1,769万4千円増加したことによるものです。また、医業外収益は、一般会計負担金や一般会計補助金の増加により、4,077万5千円増加しており、特別利益についても、大阪府市町村職員互助会の解散に伴う清算金の発生などにより、3,680万2千円増加しています。

#### (2) 費 用

平成22年度の病院事業費用は、58億6,611万9千円で、21年度に比べ276万2千円増加しました。このうち、医業費用は57億3,563万円で、21年度に比べ51万円の微増となっています。主な内訳では、退職給与金について4,000万円の引当てを行いました。退職者数の減少等により、21年度と比べて、総額は3,413万1千円減少しました。しかしながら、看護師の増員などにより、給与費全体では3,547万8千円増加しています。また、材料費は8億8,243万6千円で、21年度に比べ3,566万円減少していますが、これは外来患者数の減少や価格交渉、診療材料の値下げなどにより、薬品費や診療材料費等が減少したことによるものです。

#### (3) 損 益

平成22年度の経常損益は1億6,829万8千円の黒字で、この額は21年度と比較して4,187万3千円増加しています。また、単年度純損益において

も1億8,314万7千円の利益を計上し、6年連続の黒字決算となりましたが、26億3,237万7千円の累積欠損金を有しています。

表 2

(単位:千円、%)

区 分	平成21年度	平成22年度		
	決算額	決算額	増減額	増減率
病院事業収益	5,968,950	6,049,266	80,316	1.3
医業収益	5,590,478	5,593,217	2,739	0.0
入院収益	3,167,696	3,268,377	100,681	3.2
外来収益	1,695,169	1,579,533	△ 115,636	△ 6.8
その他医業収益	727,613	745,307	17,694	2.4
うち一般会計繰入金	558,904	578,708	19,804	3.5
医業外収益	376,369	417,144	40,775	10.8
うち一般会計繰入金	283,281	341,321	58,040	20.5
特別利益	2,103	38,905	36,802	1,750.0
病院事業費用	5,863,357	5,866,119	2,762	0.0
医業費用	5,735,120	5,735,630	510	0.0
給与費	3,367,483	3,402,961	35,478	1.1
うち退職給与金	158,629	124,498	△ 34,131	△ 21.5
材料費	918,096	882,436	△ 35,660	△ 3.9
経費	1,181,650	1,170,849	△ 10,801	△ 0.9
減価償却費	220,784	251,717	30,933	14.0
その他医業費用	47,107	27,667	△ 19,440	△ 41.3
医業外費用	105,302	106,433	1,131	1.1
うち企業債支払利息	3,366	15,762	12,396	368.3
特別損失	22,935	24,056	1,121	4.9
経常損益	126,425	168,298	41,873	33.1
単年度純損益	105,593	183,147	77,554	73.4
利益剰余金(△累積欠損金)	△ 2,815,524	△ 2,632,377	183,147	△ 6.5
不良債務	—	—	—	—

## 市立枚方市民病院における医師大学院修学資金貸与制度の拡充について

事務局 総務課

平成 21 年度に小児科・産婦人科等の救急外来当直医師の確保を目的として創設した医師大学院修学資金貸与制度について、制度の拡充を図ります。

### 1. 拡充の目的

現行の市立枚方市民病院医師大学院修学資金貸与制度の対象者及び人数の拡大を行い、市立枚方市民病院における医師の確保を図ることを目的としています。

### 2. 拡充の概要

#### ①修学資金貸与対象者の拡大

現行の条例では、修学資金貸与対象者を本院の診療に従事する医師で大学院の医学を履修する課程に修学する常勤以外の者、すなわち大学病院等からの応援医師を対象としています。

しかし、昨年 11 月の北河内夜間救急センター移設による小児救急体制の見直しや新病院の開院などを踏まえると、後期研修医などの若手医師を確保することも必要となってきます。

そのため、条例中の「常時勤務を要する者を除く」という規定を削除し、貸与対象者の拡大を図ります。

#### ②貸与者数の弾力化

現行の条例では、貸与者数を「毎年度 3 人以内」と定めていますが、状況に応じて弾力的に対応できるよう、「3 人以内」という規定を削除します。

### 3. 実施時期

平成 23 年 11 月 1 日より実施します。

### 4. 今後の予定

平成 23 年 9 月 改正条例案を第 3 回枚方市議会定例会に提出します。

市立枚方市民病院

# 新病院の概要



外観イメージ

平成23年7月

現在の市民病院は老朽化が進み、災害への対応や療養環境などの面で課題があります。そこで、公立病院としての機能と役割を果たすために、新病院の整備事業を進めています。この度、新病院の実施設計がまとまりましたので、「新病院の概要」を作成しました。

## 施設概要

敷地位置	大阪府枚方市禁野本町2丁目1844番2 他		
開発区域面積	21,973 m <sup>2</sup>	敷地面積	20,927 m <sup>2</sup>
建築面積	6,007 m <sup>2</sup>	延床面積	31,824 m <sup>2</sup>
構造・階数	鉄筋コンクリート造、地上7階・地下1階建て（高さ：32.22m）		
病床数	335床		
診療科目（予定）	内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・小児科・外科・こう門科・整形外科・脳神経外科・胸部外科（心臓血管外科・呼吸器外科）・形成外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・麻酔科		
駐車台数	駐車場：179台 車椅子使用者用駐車場：4台		

## 新病院における医療の特色

### ■小児・周産期医療の充実

- ・小児医療の充実と保健・福祉との連携
- ・365日・24時間対応の小児二次救急医療
- ・分娩・新生児集中治療部門の整備

### ■二次救急医療の充実

- ・消防機関や初期・二次救急医療機関との連携強化
- ・第三次救命救急センター・高次医療機関との連携強化

### ■質が高く、身体にやさしい医療の充実

- ・内視鏡外科センターの設立

### ■がん治療の充実

- ・最新の放射線治療の実施
- ・緩和ケア病棟の設置

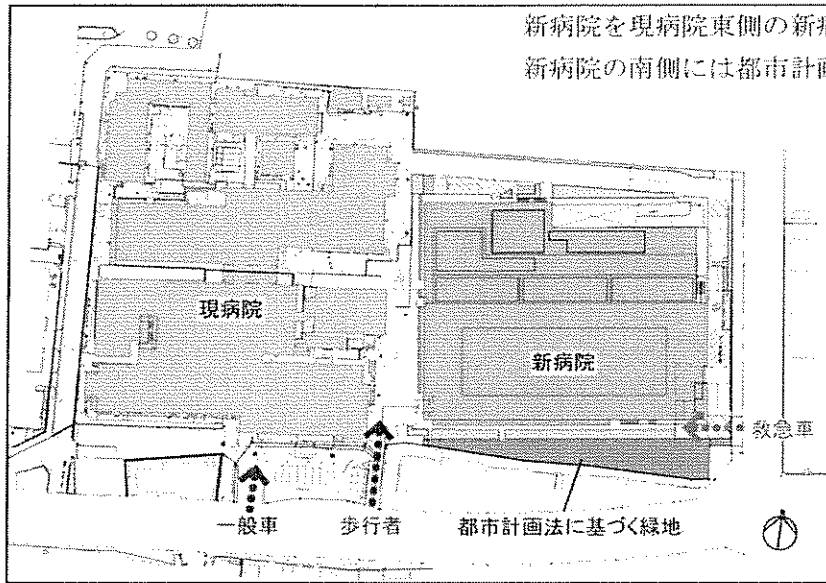
## 新病院の特色ある機能

### ■災害時医療機能の確保

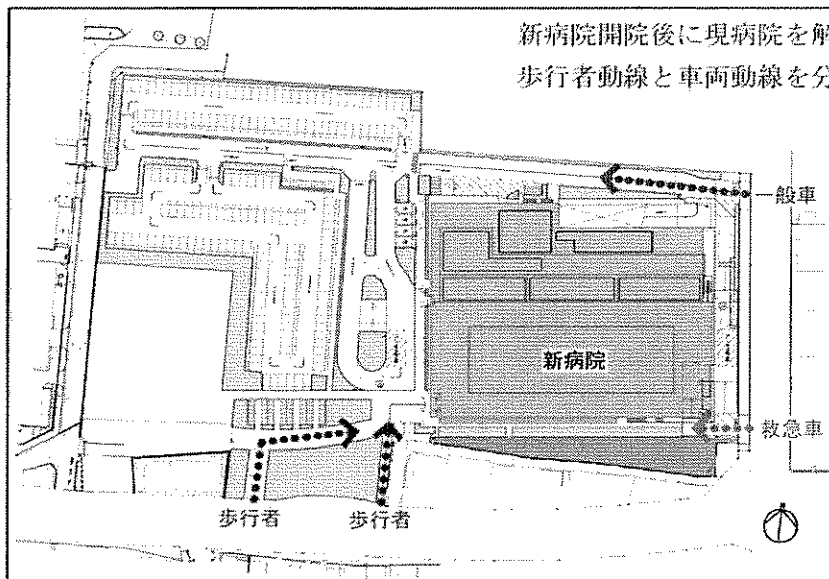
- ・震災時の病院機能維持のための免震構造や設備の採用
- ・災害時医療への対応ができる空間の確保

### ■感染症対応機能の確保

- ・陰圧個室8床の整備
- ・感染症病棟への直行エレベーターの整備



新病院開院時  
(平成26年目標)



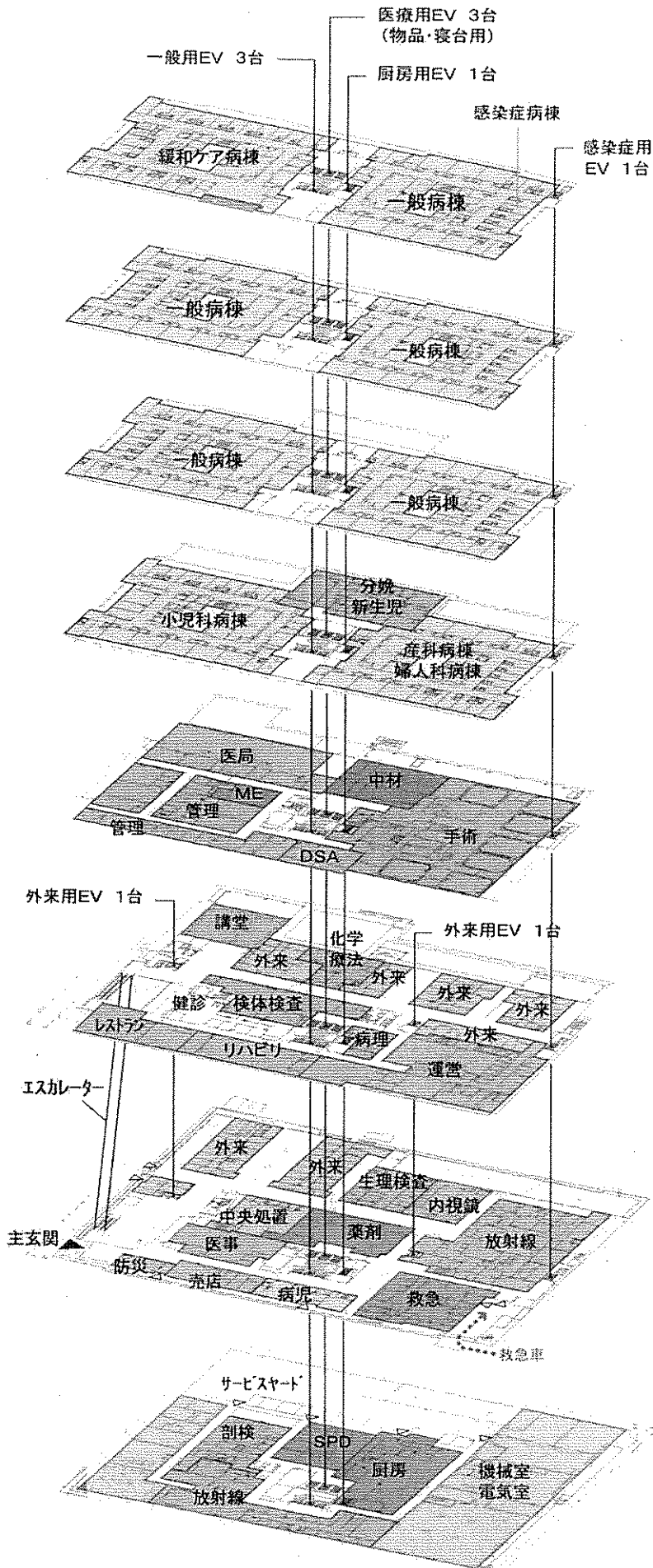
事業完了時  
(平成28年目標)



鳥瞰イメージ



# 各階ゾーニング



## 各階概要

7階	西	緩和ケア病棟	20床
	東	一般病棟	38床
		感染症病棟	8床

6階	西	一般病棟	47床
	東	一般病棟	47床

5階	西	一般病棟	47床
	東	一般病棟	47床

4階	分娩・新生児集中治療部門 (NICU4床・GCU2床)		
	西	小児科病棟	35床
	東	産科病棟	25床
		婦人科病棟	15床

3階	手術部門	DSA(血管造影)室
	中央材料滅菌室	
	ME(医療機器管理)センター	
	医局・管理諸室	

2階	外来部門	リハビリテーション部門
	健診センター	検体検査・病理検査部門
	化学療法室	運営部門(事務室・更衣室・院内保育所)
		講堂・レストラン・図書情報コーナー

1階	外来部門	放射線部門
	救急医療部門	薬剤部門
	生理検査部門	医事課・地域医療連携部門
	内視鏡部門	売店
		病児保育室

地階	放射線部門	厨房
	剖検・霊安	SPD(物流管理)部門
	機械室	電気室

# 人に、環境にやさしい施設

環境への配慮

快適性の向上

- 太陽光発電設備の設置など、自然エネルギーの有効利用やエネルギー効率の高い設備の採用で、地球環境の保全に配慮
- 屋上緑化や駐車場の芝生化により、建物の熱負荷抑制やヒートアイランド対策を行うとともに、みどり豊かな屋外空間を提供
- 病棟の光庭などで自然採光・通風を積極的に取り入れることや、暖かみある内装などにより、アメニティ豊かな屋内空間を提供
- 利用者にとってわかりやすい施設配置やサインの設置、バリアフリーで使いやすい空間や設備など、ユニバーサルデザインに配慮

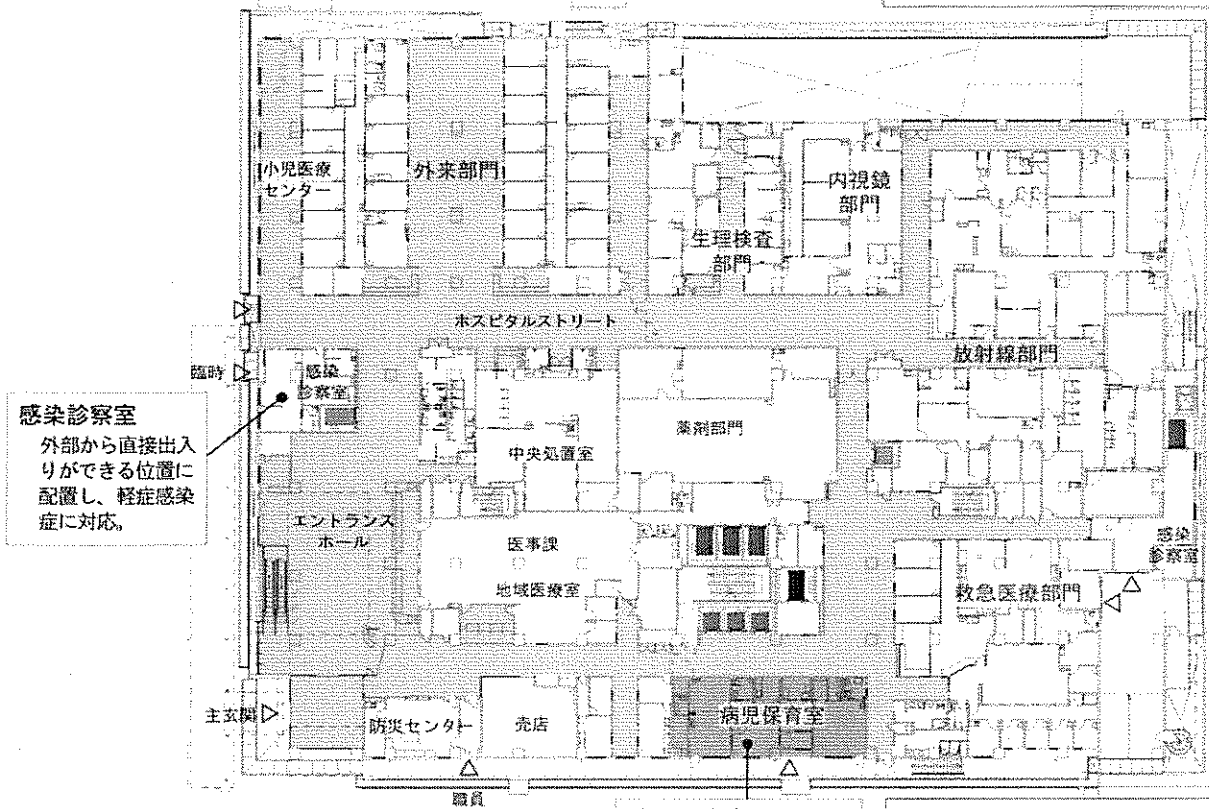
## わかりやすく、使いやすい外来・診療部門(地階・1階)

1階

外来部門・生理検査部門・内視鏡部門  
ホスピタルストリート沿いにわかりやすく配置。

放射線部門

外来部門と救急医療部門の双方から利用しやすい位置に配置。



感染診療室

外部から直接出入りができる位置に配置し、軽症感染症に対応。

病児保育室

外部から直接出入りができる位置に配置。

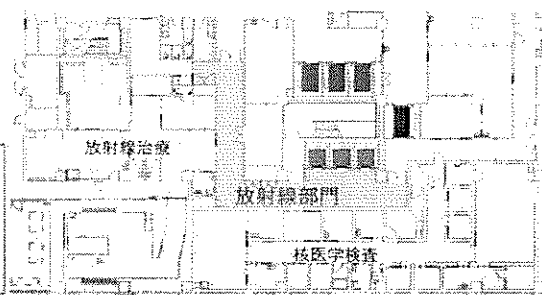
救急医療部門

救急車入口の近傍に配置。重症感染症対応の診療室を配置し、感染症用エレベーターで感染症病棟に直結。

地階

放射線部門

放射線治療、核医学検査のための室を配置。一般用エレベーターの利用で、他のサービス部門とは動線を区分。



エレベーター 凡例

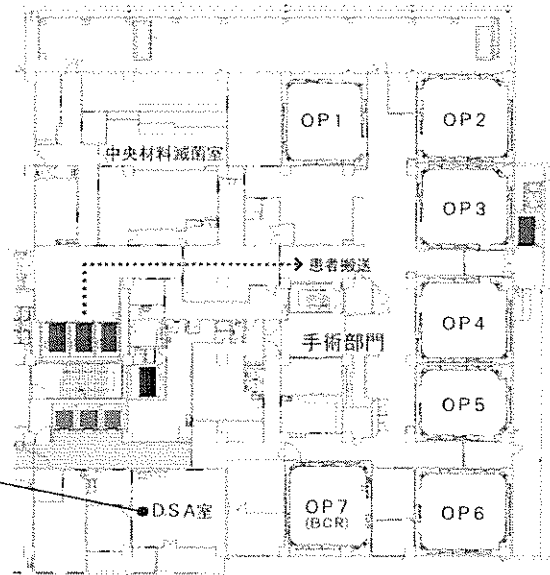
- 一般用
- 外来用
- 医療用
- 厨房用
- 感染症用

# わかりやすく、使いやすい外来・診療部門(2階・3階)

## 3階

**手術部門**  
 医療用エレベーターに隣接して、手術部門の入口を設置。効率のよい手術ホール型のプランを採用。内視鏡下での手術に対応出来る手術室を整備。

**DSA(血管造影)室**  
 血管造影下での処置の安全性を高めるため、手術部門に隣接して配置。

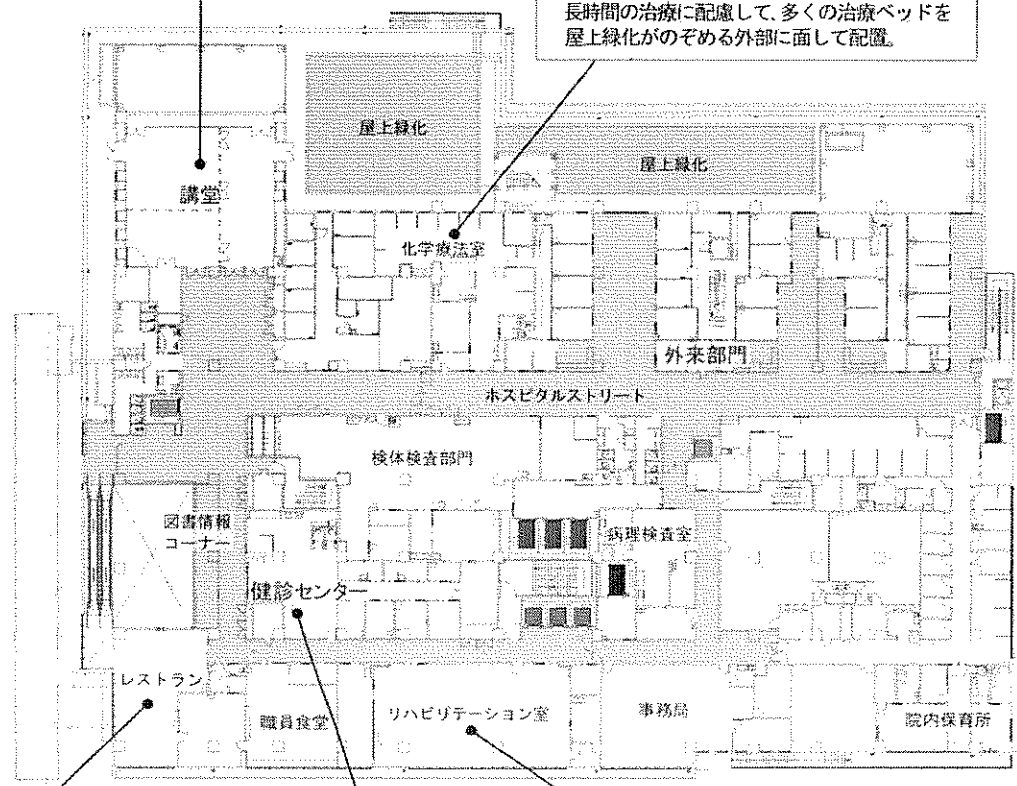


## 2階

**講堂**  
 講演会や研修会に使用し、災害時医療活動空間としても利用できるようにエントランスホールから行きやすい位置に配置。待合ロビーや院内コンサートにも利用。

**外来部門**  
 エントランスホールからのエスカレーターやエレベーターに連なるホスピタルストリートに沿って配置。

**化学療法室**  
 長時間の治療に配慮して、多くの治療ベッドを屋上緑化がのぞめる外部に面して配置。



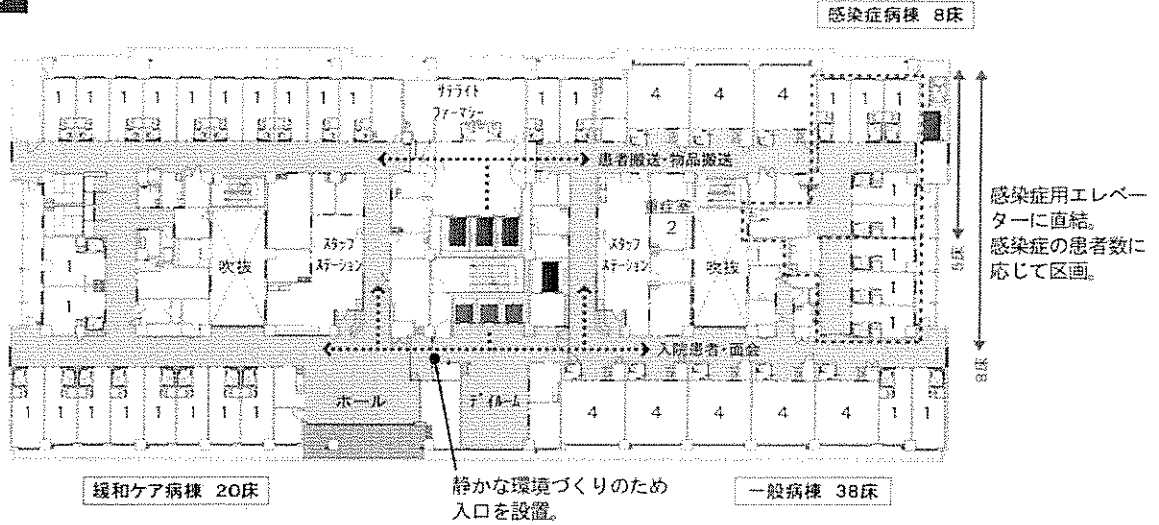
**レストラン**  
 エントランスホールから行きやすく、病棟からも外来を通らずに利用できる位置に配置。

**健診センター**  
 2階外来のメイン動線と分離し、静かな環境を確保。

**リハビリテーション室**  
 病棟、外来部門の双方から利用しやすい位置に、緑地がのぞめる明るい環境を確保。

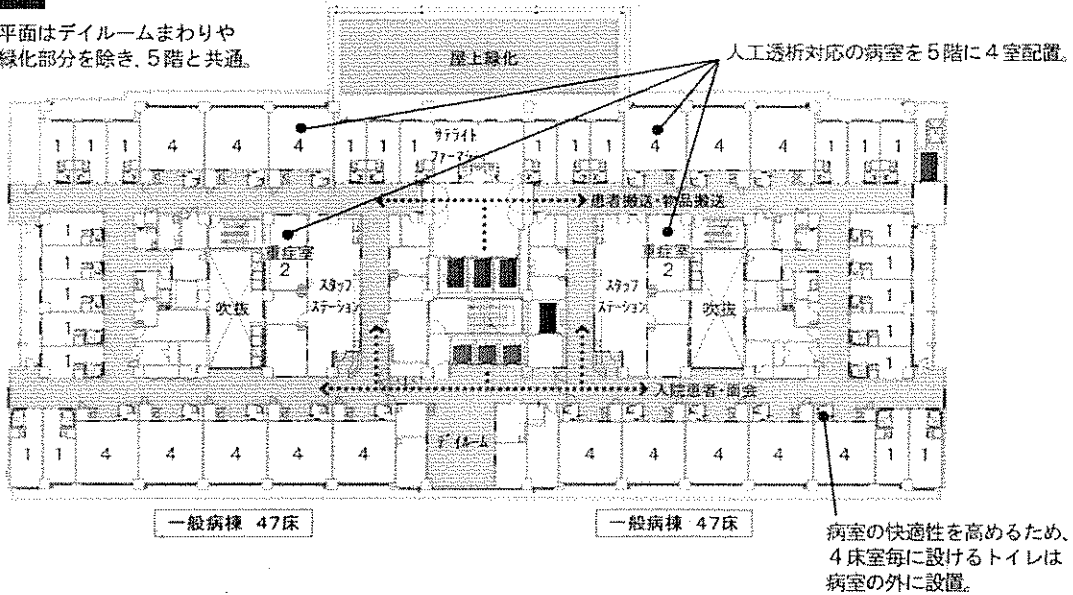
# 安心とくつろぎの病棟環境(4~7階)

## 7階

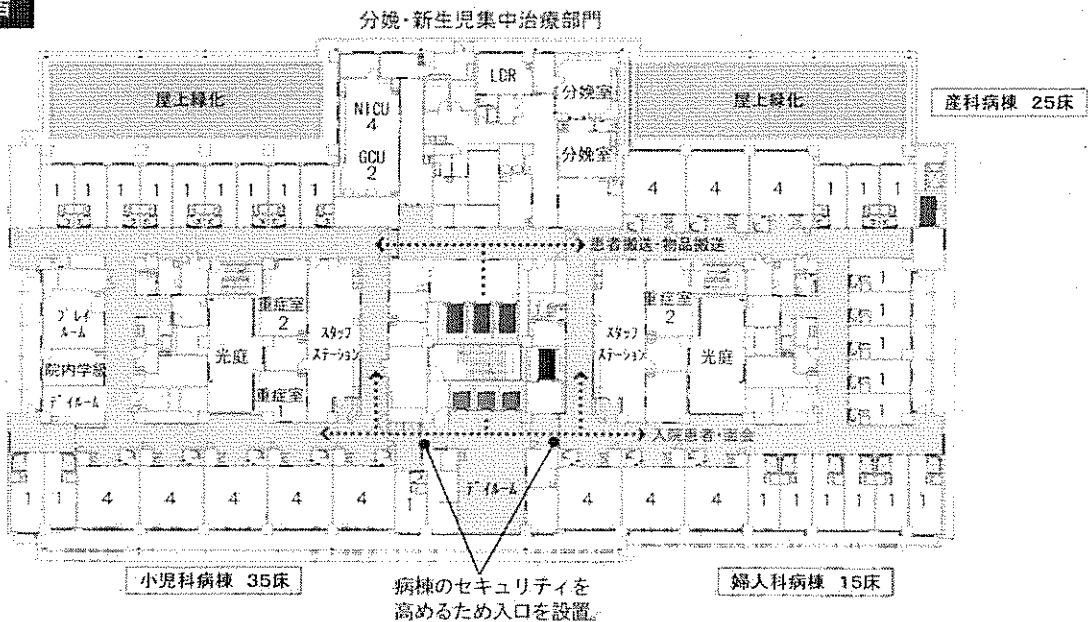


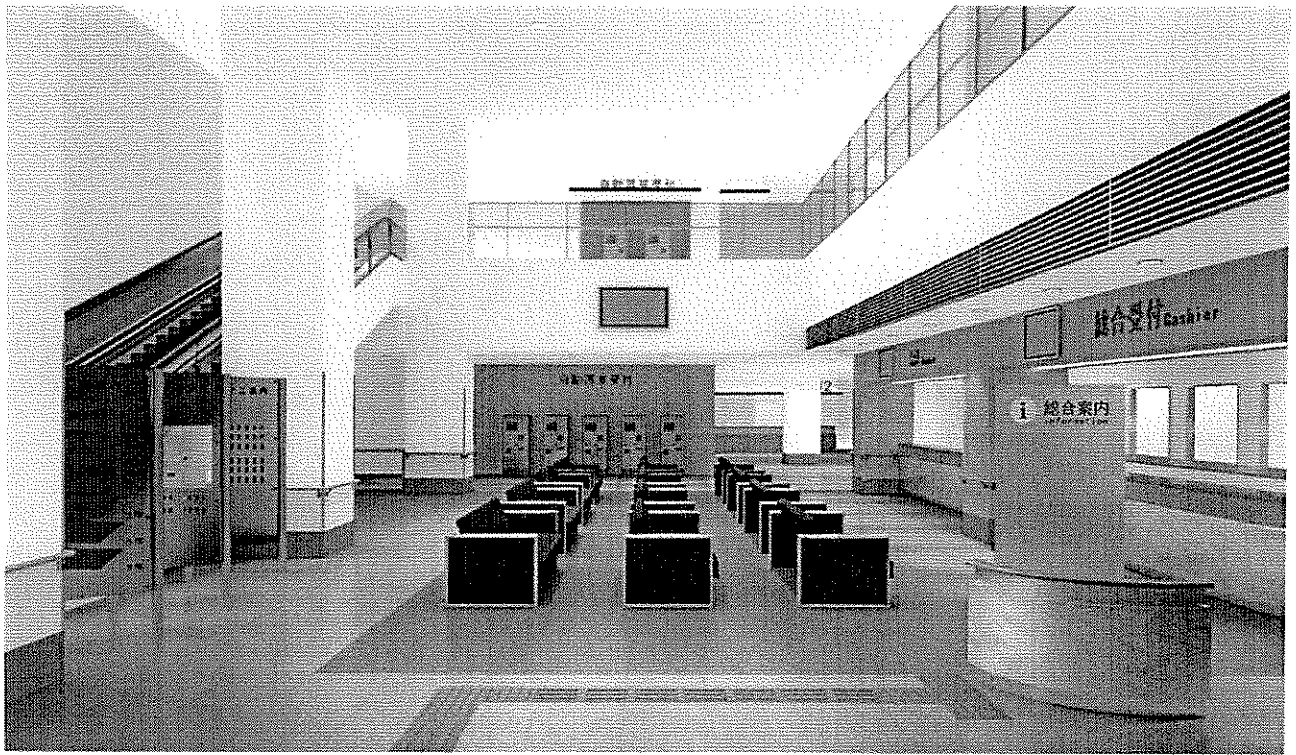
## 5階

6階平面はデイルームまわりや屋上緑化部分を除き、5階と共通。

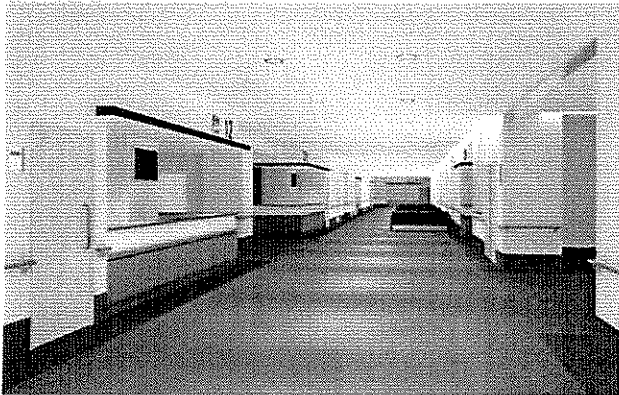


## 4階





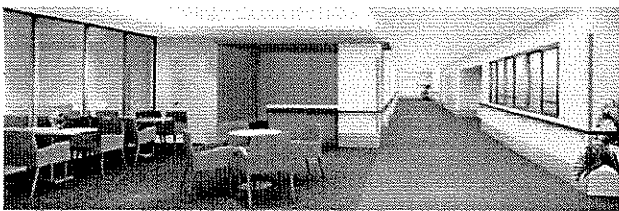
エントランスホール



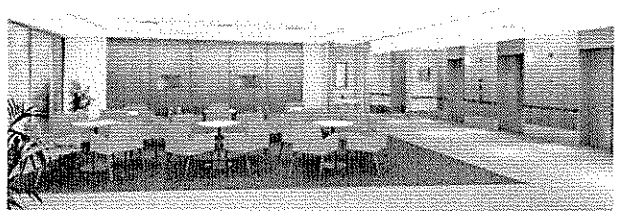
1階ホスピタルストリート



病室(4床)

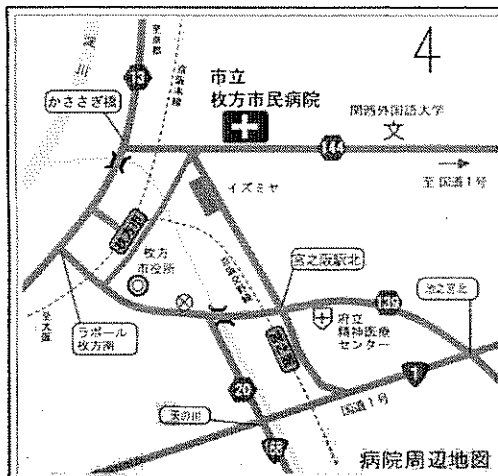


7階ホール



病棟デイルーム

内部イメージ



お問い合わせ先

市立枚方市民病院 事務局 経営企画課

〒573-1013

住所 : 大阪府枚方市禁野本町2丁目14番1号

TEL : 072-847-2821(代表)

FAX : 072-847-2825

URL : <http://www.city.hirakata.osaka.jp/>

[freepage.gyousei/byouin/visual/index.php](http://freepage.gyousei/byouin/visual/index.php)

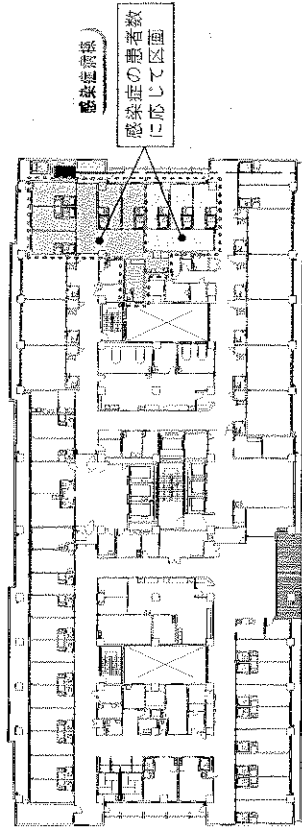
E-mail : [bykeiei@city.hirakata.osaka.jp](mailto:bykeiei@city.hirakata.osaka.jp)



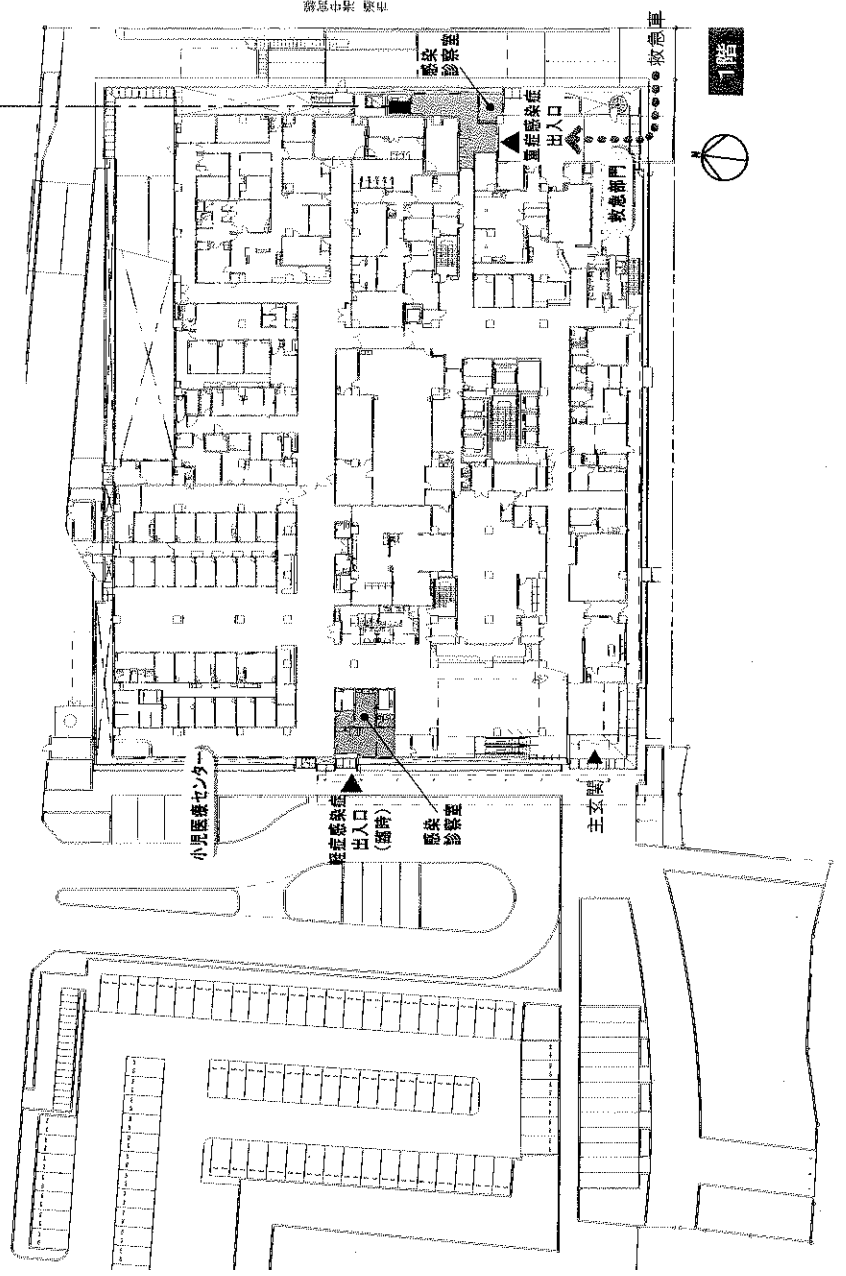
# 新病院における 感染症対応

## ■ 感染症対応機能の確保

- 軽症感染症と重症感染症とを区分して対応
- 1階救急部門に隣接して、重症感染症対応の診察室を配置。感染症専用エレベーターを設け、7階感染症病棟(第2種)に直結
- 1階小児医療センターに隣接して、正面ロビー側から直接アプローチ可能な感染診察室を配置
- 7階に感染症病棟(第2種)を整備(8床)。病室はトイレ・シャワー付きの個室



1階と7階感染症病棟を連結する感染症専用エレベーター



市立枚方市民病院

## 新病院の名称について

経営企画課

### 1. 趣旨

現在、整備を進めている新病院は、老朽化した現病院の単なる建替えではなく、これからの時代の新たな医療ニーズに応えるとともに、市民により一層信頼され、親しまれる「新しい病院づくり」でなければなりません。

新病院の開院を契機に、市民病院のイメージを一新し、その基本性格をわかりやすく市民の皆様にご認識していただけるような新名称への変更について、検討いただくものです。

### 2. 経過

- (1) 昭和 25 年 4 月 「枚方市特別会計国民健康保険直営市民病院」として開設
- (2) 昭和 35 年 1 月 「市立枚方市民病院」に改称

### 3. 現行の規定

●枚方市病院事業の設置等に関する条例（抜粋）

（名称及び位置）

第 2 条 病院事業に係る病院の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 市立枚方市民病院

位置 枚方市禁野本町 2 丁目 14 番 1 号

### 4. 検討時期について

新病院の整備工事においては、各種サイン類を大量に整備します。従って、新病院の名称変更を行うのであれば、仕様・契約の変更が可能な時期（平成 24 年度当初頃）までに、条例改正により新名称を定める必要があります。

### 5. 名称案

(1) 基本となる考え方

- ① 小児医療、周産期医療、がん医療、低侵襲医療、災害時医療等の特色ある医療を提供する公的な医療機関であることをイメージ化するため、「医療センター」という表記を用いる。
- ② 親しみやすさを出すために、表記にひらがなを用いることも検討する。



## (2) 名称案

- ① 枚方市立医療センター
- ② 市立ひらかた医療センター

## 6. 今後のスケジュール等

名称の選定については、本委員会のご意見を伺いながら原案を作成し、インターネット・アンケートなどで広く市民の声もお聞きします。

これらを踏まえ、市議会において、枚方市病院事業の設置等に関する条例の改正案をご審議いただきます。

## 7. 参考資料

大阪府内の主な病院名称については、下表のとおりです。

名称スタイル	大阪府内の事例
「市立〇〇市民病院」型 (現行名称型)	大阪市立十三市民病院、大阪市立住吉市民病院 市立吹田市民病院、市立藤井寺市民病院 市立岸和田市民病院
「市立〇〇病院」型	市立池田病院、市立豊中病院、市立柏原病院 市立堺病院、市立貝塚病院
「〇〇市立病院」型	箕面市立病院、八尾市立病院、和泉市立病院 泉大津市立病院、東大阪市立総合病院
「〇〇医療センター」型	大阪府立急性期・総合医療センター 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 大阪府立精神医療センター 大阪府立成人病センター 大阪府立母子保健総合医療センター 大阪市立総合医療センター